



Towa Pharmaceutical Europe, S.L.  
マルチトレージャス工場

## 東和グループの医薬品を 必要とされる世界中の 患者さんにお届けしたい

2020年に買収した現Towa Internationalを海外展開の橋頭保として、欧米での医療ニーズを踏まえた品揃えによる自販製品の拡充や、大型造粒機を活用した競争力のあるCMOビジネスを通じて、グローバル市場での売上を拡大してきました。並行して、日本・スペイン間でのグローバル製品の共同開発やスペインでの日本向け製品の製造を進めており、グローバルシナジーの実現に取り組んでいます。

今後はグループの技術力をさらに融合し、付加価値のついた東和品質の医薬品を、世界の多くの患者さんにお届けすることで、企業理念である“こころの笑顔(genuine smile)”の実現を目指していきます。

東和グループの人材は、多様な文化や価値観を尊重し、グローバルに考え、ローカルに活動することを通じて、それぞれの社会に貢献する企業であり続けます。

取締役  
竹安 正顕



特集

01

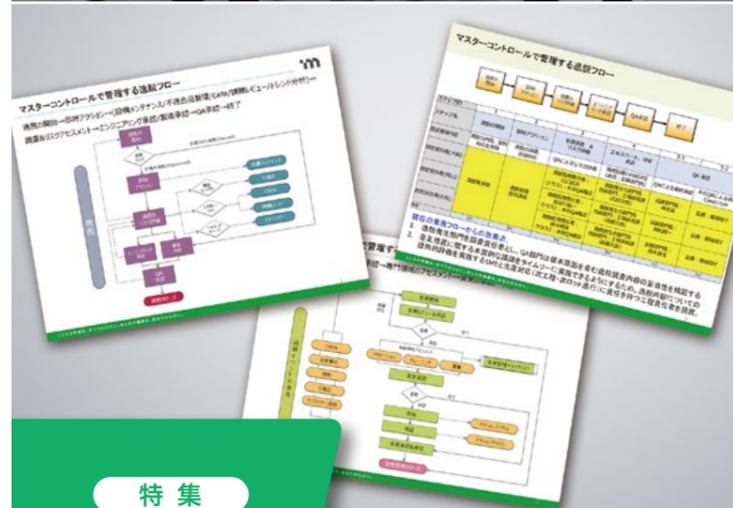
海外事業

## 海外事業の拡大と、 グローバルな製造強化に 努めてまいります

### Towa INT傘下のグループ会社を通じて、世界30カ国以上にて事業を展開

当社では、海外市場における付加価値製剤の提供を目指しており、欧州の複数国および米国での販売網と、スペインにある欧米などの基準に準拠した製造拠点を活用して、海外における事業展開を加速しています。2020年にスペインのエステベグループからジェネリック医薬品事業を集約するPensa Investments, S.L.を買収して東和薬品のグループ会社としたの続き、東和薬品グループの一員であることを明確化し、グループとして一層の協業推進を図るため、Towa Pharma International Holdings, S.L.(以下、Towa INT)に社名変更しました。現在、Towa INTの傘下には欧米に7つのグループ会社があり、医薬品のB2Bビジネスとして2023

年度時点で30カ国以上にて事業を展開しています。中でも、Towa INT傘下のTowa Pharmaceutical Europe, S.L.のマルチトレージャス工場では、大型造粒機を用いた大量かつ効率的な生産という強みを活かして欧米の市場に製品を提供しています。さらに、マルチトレージャス工場では2024年2月に独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)から日本向けに製造することの認定を受け、消化器系疾患の治療薬であるエソメプラゾールカプセル10mg/20mg「トーワ」の製造所として追加されました。今後、グループ各社の技術を活かした共同開発などさらなる事業強化に努めてまいります。



特集

02

品質管理

## グローバル基準に基づく 品質管理と信頼性向上に 注力してまいります

### 品質マネジメントシステムの導入による全てのデータの保存

当社では、信頼される企業を目指して、製品の研究開発から製造、営業、製造販売後に至るまで、国が定めた厳格な品質管理基準を遵守し、医療用医薬品に必要な品質保証体制を確立しています。特に、医薬品の製造では、GMP・GQP・GVP省令およびGDPガイドラインを遵守し、品質保証体制の維持と強化を進めていきます。加えて、独自の制度・教育訓練等により適切な品質と安全性の確保に、徹底的に取り組んでいます。さらに、当社では2024年1月に品質マネジメントシステム「MasterControl Quality Excellence (Qx)」を導入しました。このシステムは米国のFDA

## 安定供給体制の強靱化へ、 品質保証でのシステム導入

マスターコントロール社の品質マネジメントシステムは米国FDAでも採用されており、医薬品の開発段階から終売に至るライフサイクルの各段階での情報を一元管理でき、Data Integrityの保証下でのトラッキングができます。品質保証プロセスの透明性を確保することで、タイムリーに、より適切な判断が可能となります。また蓄積された情報を検索・共有化することで、製品開発や品質改良にて得られた情報を知識として活用でき、技術開発での課題解決の効率化やスムーズなスケールアップ生産につなげられるなど、安定品質の生産と製品供給に貢献できると期待しています。

今後、海外子会社を含むグループ会社にも同じシステムを導入し、東和グループとして品質システムと運用基準の統合化を進めていく予定です。

品質システムの強化と蓄積される情報を活用することで、安定した品質を安定供給する体制の強靱化につなげ、東和グループとして社会に貢献し、患者様や医療従事者の信頼に添えていきます。

信頼性保証本部長  
深江 正文



のほか、世界の200社以上で採用されているグローバルスタンダードのシステムです。これを利用することで、データや記録の不整合や欠損が生じない、客観的に完全かつ正確に全てのデータを保存することができます。また、当社は品質イベント管理に関し、海外グループ会社の知識や経験も活用しています。グローバルな視点を持ちながら、品質保証体制の維持向上に取り組むことで、人為的な誤りを未然に防ぐことを可能にします。今後、品質と信頼性をグローバルレベルで確保するために、技術やノウハウを積極的に蓄積・活用し、国際基準に沿った製品を提供してまいります。

# 東和薬品の価値創造プロセス

東和薬品グループは、社会課題に対応するために、経営資本を人々の健康に貢献するあらゆる事業に投入することで価値を創造しています。「第6期中期経営計画2024-2026 PROACTIVE III」に基づき、すべての人々の健康に貢献し、こころの笑顔を実現してまいります。

## 社会課題

健康寿命の延伸と疾病の予防

高品質な医薬品製造

医薬品の品質確保と安定供給

基礎的医療サービスへのアクセス向上

医療サービスへの先端技術の活用

労働環境の整備

### INPUT 経営資本

#### 財務資本

- 総資産(連結) 4,306億円
- 純資産(連結) 1,558億円

#### 製造資本

- 生産拠点数 12 拠点(日本11[内 東和薬品3] 欧州1)
- 生産実績(東和薬品) 136 億錠(錠剤・カプセル)
- 多様な剤形に対応する生産設備

#### 知的資本

- 研究拠点 8 拠点(日本7 欧州1)
- 研究開発投資額(2022年3月期-2024年3月期) 累計350億円以上
- 原薬合成プロセスノウハウ

#### 人的資本

- 従業員数(連結) 4,588名
- 連結子会社 13 社(日本5 海外8)
- 薬剤師資格保持者(国内連結) 269名
- MR(国内連結) 770名

#### 社会・関係資本

- 原材料メーカー・医療品流通会社・代理店等のビジネスパートナーとの連携
- 医療機関カバー率(東和薬品) 病院 93.3% 調剤薬局 96.8%

#### 自然資本

- エネルギー投入量(原油換算・連結) 40,448kl
- 用水使用量(連結) 733,401m<sup>3</sup>

### 強み

最新の技術で改良・改善を重ね、東和品質を追求し続ける研究開発力

多品目生産においてたしかな製造管理 生産管理・品質管理体制を維持

高い品質と安定供給の実現に向けた原薬自製化の取り組み

### 国内ジェネリック医薬品事業

### 海外医薬品事業

### 新たな健康関連事業

多品目かつ大量生産を可能とする生産能力と安定供給体制

ニーズに即した独自の東和式販売体制

海外を含む新たな健康関連事業につながるグループ会社を複数もち、新たな技術や製品・サービスの実現

## 企業理念

こころの笑顔

人々の健康

### 第6期中期経営計画 2024-2026 PROACTIVE III

#### サステナビリティ方針

1. 事業基盤を強化する
2. 地球環境に配慮する
3. 一人ひとりを大切にする
4. 技術革新に挑み続ける

価値創造を支える基盤

## OUTCOME

### 直接的な価値

- 医薬品の安全・安心
- 医薬品の安定供給
- 医療費の削減と社会保障制度の維持
- こころとからだの健康
- 医療アクセスの改善
- 付加価値製剤によるアドヒアランス向上

### 間接的な価値

- 産業競争力
- 地域発展への貢献
- 雇用の創出
- 豊かな社会
- 納税

健康の先の未来を創造する

# 東和薬品を取り巻く外部環境

## ジェネリック医薬品の社会的使命と政策の進展

近年、ジェネリック医薬品が果たす社会的使命はますます重要なものとなっています。2017年に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2017（骨太方針2017）」のもとでは、ジェネリック医薬品の使用割合を2020年9月までに80%以上に高めることが目標として掲げられました。

これを受けて、当社をはじめとするジェネリック医薬品業界は、生産体制の拡充と安定供給に努めてきました。2023年度薬価本調査では、ジェネリック医薬品の使用率は数量シェアで80.2%となっています。現行の後発医薬品の使用推進については、数量シェア目標が継続され、新たに金額シェア目標

値が設定されることになっています。（2029年度金額シェア65%以上）

また、長期収載品の選定療養に関して、令和6年の診療報酬改定において、長期収載品の保険給付の在り方が見直され、選定療養の仕組みが導入されました。長期収載品の選定療養の範囲は、後発品が上市されてから5年が経過した長期収載品または、後発品への置き換え率が50%を超える長期収載品が対象となっています。併せて、バイオシミラーについても、「2029年度末までに数量ベースで80%以上置き換わった成分が全体の成分の60%以上」とする目標値が設定されました。

## 薬価調査における数量シェアおよび金額シェアの推移



令和6年3月14日 第176回社会保障審議会医療保険部会 資料より

## ジェネリック医薬品業界の信頼回復と安定供給への取り組み

ジェネリック医薬品の使用割合が高まる一方で、業界における不祥事や安定供給への懸念が生じています。複数の医薬品企業で製造管理・品質管理上の不備により医薬品医療機器等法の違反が発覚し、業務停止などの処分が実施され、製品の回収や出荷停止が相次いでいます。この結果、医薬品の供給が不足し、医療機関や薬局に十分な供給量が確保できない事態が発生しています。

厚生労働省は、ジェネリック医薬品の新目標設定だけでは「患者様や医療関係者に十分な理解が得ら

れない」として、業界全体で製造管理や品質管理を徹底し、安定供給を確保する方策を打ち出す必要があるとしています。

業界では、安定供給に関する企業情報の可視化を進め、後発品の安定供給を確保できる企業評価の指標とその試行的導入に着手しています。当社は「東和品質」を追求し、医薬品の品揃え強化、安定供給体制・品質保証体制の維持、情報提供体制の強化に努め、業界の信頼回復に全力を尽くしています。

# 東和薬品の資本

当社は、これまで培ってきた各種の資本を活かしつつ、社会課題の解決に真摯に取り組むことで、グループを挙げて価値の創造に挑んでいます。健康寿命の延伸をはじめとする諸課題の解決を通じて、世界の人々への貢献を目指しています。



## 財務資本

- 総資産（連結） **4,306** 億円
- 純資産（連結） **1,558** 億円

2024年3月期末における総資産は、前連結会計年度比59,305百万円増加の430,653百万円でした。また、純資産は、同18,998百万円増加の155,893百万円となりました。その結果、当連結会計年度末の自己資本比率は36.2%となりました。



## 製造資本

- 生産拠点数 **12** 拠点（日本11 [内 東和薬品3] 欧州1）
- 生産実績（東和薬品） **136** 億錠（錠剤・カプセル）
- 多様な剤形に対応する生産設備

当社グループの生産拠点は、国内11拠点、スペインカタルーニャ州の海外1拠点の計12拠点となっています。中心となる東和薬品の錠剤カプセル剤の生産実績は136億錠と、生産能力のほぼ最大値に及んでいます。また、子会社では軟膏やソフトカプセル等の生産を行い、グループ全体として幅広い剤形に対応できる点が特長です。



## 知的資本

- 研究拠点 **8** 拠点（日本7 欧州1）
- 研究開発投資額 累計 **350** 億円以上（2022年3月期-2024年3月期）
- 原薬合成プロセスノウハウ

研究開発は、日本7拠点、欧州1拠点の計8拠点にて展開しています。2022年3月期から2024年3月期までの研究開発投資額の目標は、累計350億円以上となっています。この中で、分子制御技術等の原薬合成プロセスに関する最先端の研究を行っています。



## 人的資本

- 従業員数（連結） **4,588** 名
- 連結子会社 **13** 社（日本5 海外8）
- 薬剤師資格保持者（国内連結） **269** 名
- MR（国内連結） **770** 名

当社グループは、MR（国内連結）として770名が在籍しているほか、薬剤師資格保持者（国内連結）が269名います。このほか、業務に必要な社内認定資格制度（エキスパート等）を設けて専門人材の育成に努めています。



## 社会・関係資本

- 原材料メーカー・医療品流通会社・代理店等のビジネスパートナーとの連携
- 医療機関カバー率（東和薬品）  
病院 **93.3%** 調剤薬局 **96.8%**

当社は、営業所71拠点、代理店30社60拠点、医療品流通会社等を通じて、日本全国で販売を展開しています。東和薬品による医療機関カバー率は、病院93.3%、調剤薬局96.8%と高い水準となっています。



## 自然資本

- エネルギー投入量（原油換算・連結） **40,448** kl
- 用水使用量（連結） **733,401** m<sup>3</sup>

当社では、品質の高い医薬品の製造に際して、良質な水とエネルギーを使用しています。これに対して、環境保全の観点から化学物質の適切な管理、工場の排水排気システムの強化、省エネルギー化等に取り組んでいます。

# 東和薬品の強み

ジェネリック医薬品は、新薬(先発医薬品)より後に発売するお薬だからこそ、最新の製剤技術を活用することで、効き目や品質、安全性が新薬と同等でありながら、より良い製品とすることができます。当社では、品質や安全性はもちろんのこと、飲みやすく、扱いやすい安心できるお薬を提供するため、さまざまな取り組みを行っています。



## 原薬開発

### 製品づくりに最良の原薬を開発・選定しています

当社では「国の承認を得た原薬」の中から「当社独自の厳しい品質基準」を満たす原薬を使用しています。また、原薬研究を積極的に行い、蓄積されたノウハウをもとに、製品づくりに最良な原薬を選定しています。さらには、自社で原薬の製造方法を確立するとともに、グループの原薬製造会社である大地化成株式会社や協力体制を構築済の原薬メーカーに委託して製造する体制を構築しています。各メーカーに対しては、基準や法令に則った製造がなされているかを定期的に調査・確認し、安定的に原薬が調達できるように管理しています。

R&D本部 原薬事業統括部  
プロセス研究第一部 第二課長  
西口 茂信



関連情報  
▶ P.39

私達は従来の製法にとらわれることなく、品質、環境負荷、生産性などさまざまな課題をクリアすべく「革新的かつ効率的な原薬の製法確立」を目指し、安心して患者様に服薬いただける原薬の研究開発に取り組んでいます。

## 安定供給

### いかなる時でも安定して供給できるように3工場による生産体制を確立しています

当社では、3工場によるバックアップ体制によって、万一どこかの工場が操業停止した場合でも、他の工場で補完できる体制を構築しています。また、東日本、西日本それぞれに設けた物流拠点は、物流の効率化を図るとともに万一の際のバックアップ体制を整備しています。2023年12月に山形工場の第三固形製剤棟が完成し、3工場合わせて年間175億錠<sup>※</sup>の生産体制が整いました。2024年4月より順次出荷が始まり、3年後のフル稼働(175億錠の生産実績)を目指して進んでまいります。

※錠剤・カプセル剤の生産能力

生産本部 生産管理部  
生産企画課長  
山本 哲也



関連情報  
▶ P.29

生産本部では安定供給に対する責任を果たすべく、効率的な生産計画の作成や生産性向上にも積極的に取り組んでいます。また、工場間の連携や他本部との情報共有も大切にしています。

## 製品開発

### 技術と経験を活かして、より飲みやすく、扱いやすい製品を開発しています

当社では、さまざまな疾患領域をカバーするため770品目以上の医薬品をラインナップ。「ひとりでも多くの患者様に役立ちたい」という思いのもと、医療現場からの声や要望に応じて改良を加えることで、付加価値のあるジェネリック医薬品を提供しています。その中では、お子様や高齢者でも飲みやすいよう形や味を改良したり、病院や薬局で取り扱いやすいよう、視認性や、光・温度・湿度に対する安定性を向上したりといった工夫を施しています。

R&D本部 製剤技術統括部  
統括部長  
岡本 康伸



関連情報  
▶ P.29

高品質・高付加価値で、患者さまや医療従事者の方々に安心して使用いただける医薬品の開発に日夜努力を重ねています。また、安定供給体制の確立を目指し、複数の製造サイトで生産できるように再現性の高い製造方法の設計に努めています。

## 情報提供

### 医薬品を安心して使用していただくため、積極的な情報発信を行っています

ジェネリック医薬品を安心してご使用いただくために、当社では、専門的な教育を受けたMR(医薬情報担当者)を中心として、自社製品に関する適正使用情報、学術情報等を医療関係者の皆さまへ迅速かつ適切に提供できる体制を整えています。また、患者様やその家族に向けて、医薬品を安心して使用いただくための情報発信を行っています。さらには、情報発信にとどまらず、医療機関の声を収集し、社内にフィードバックすることで、より良い製品づくりに活かしています。

営業本部 学術部  
学術プロモーション課長  
渡辺 圭介



関連情報  
▶ P.38

会社の「思い」を持って他本部・他部署とも連携を図りながら、当社の魅力を周知することと売上の向上を目指して営業ツールの企画・作成を担当しています。営業本部全体の営業力強化に向けての取り組みであり、やりがいを感じています。

## 品質管理

### 確かな品質と安全性の確保に、徹底的に取り組んでいます

当社では、信頼される企業を目指して、製品の研究開発から製造、営業、製造販売後に至るまで、国が定めた厳重な品質管理基準を遵守しています。そして、全社を挙げて品質管理に取り組み、医療用医薬品に必要な品質保証体制を確立しています。特に、医薬品の製造では、GMPと呼ばれる、国が定めた「医薬品の製造管理および品質管理の基準」やその他関連する法令を遵守するだけでなく、独自の制度・教育訓練等により適切な品質と安全性の確保に、徹底的に取り組んでいます。

信頼性保証本部  
品質保証部長  
葛城 知子



関連情報  
▶ P.40

信頼される「東和の品質」を世界へ。国内はもとより、海外の方々に、信頼される医薬品をお届けするために、私達は日々挑戦し続けています。医薬品の品質システムの向上、製造管理、そして品質管理を徹底し、患者様の思いに寄り添いながら進んでまいります。

## 人財育成

### 信頼される企業を目指して、働きがいのある環境づくりと人財育成に注力しています

当社は、総合ジェネリック医薬品メーカーとして、より信頼され、必要とされる存在を目指しています。信頼される会社の礎は人材であるという考えのもと、働きがいのある環境づくりをはじめ、人材の育成、組織の強化への取り組みを進めています。2024年度からの「第6期 中期経営計画」では、東和薬品グループ社員の「こころの笑顔」の実現に向け、個人の成長やキャリア形成を支援し、社員一人ひとりにとって、働いていて良かったと思ってもらえるような会社であり続けることを目指している他、人材獲得・育成や多様性を推進してまいります。

人事部 採用推進部  
次長  
河島 正和



関連情報  
▶ P.41

人事部では年間2,000人以上の社員とキャリア面談を行い、社員一人ひとりの考えの把握や、希望するキャリアの実現支援に取り組んでいます。今後も、社員のキャリアの充実につながる施策を企画・実行していきます。

中期経営計画  
2021-2023

# PROACTIVE II

第5期中期経営計画では、国内のジェネリック医薬品の数量シェアは80%の達成を見込み、「コア事業としてのジェネリック医薬品事業の進化」に注力しました。これにより、製造管理・品質管理を踏まえた安定供給体制の構築で成果を上げました。

また、2021年に当社が70周年を迎えるという第3次成長期の幕開けの3か年でもあり、これまでの「医薬品で病気を治したい」という想いに加えて、「未病や健康な方にも貢献する健康関連の事業に拡大したい」という想いを目標として掲げました。これにより、「新たな健康関連事業への展開」について着実に前進しました。



- [方針1]** コア事業としてのジェネリック医薬品事業の進化  
信頼される総合ジェネリック医薬品メーカーに向けて、30成分65品目の新製品を上市し、初のオーソライズドジェネリック製品を発売。また、関西・関東に新たな出荷センターを設置し、年間140億錠体制への増産を進め、さらに年間175億錠体制に向けた山形工場の生産能力強化工事も完了しました。
- [方針2]** 海外市場での拡大と成長  
当社は、欧州や北米を中心に39カ国での販売拡大を進め、グローバル事業基盤の確立に取り組んできました。また、グローバル生産体制の一環として、スペイン・マルトレージャス工場を日本国内向けのエソメプラゾール製剤の製造承認を取得しました。
- [方針3]** 新たな健康関連事業への展開  
2021年3月には疾病リスクの検査事業への参入を目的に、臨床検査薬の研究開発を推進。また、個人の医療・健康情報の連携を目的としたクラウド型地域医療情報連携サービスを開始しました。さらに2022年には三生医薬の株式を取得し、新たな事業の柱として健康関連事業への展開を進めています。
- [方針4]** 技術イノベーションと製品価値の創出  
原薬の苦みを完全にマスクする球形晶析技術や、生産効率を向上させるコーティング技術など、原薬および製剤の面でさまざまな新技術を確認。さらに製品への実用化にも取り組みました。
- [方針5]** 働きがいのある環境づくりと人材育成  
社員一人ひとりの働きがいを醸成するため、ローテーションモデルを通じたキャリア形成支援やe-learningコンテンツ拡充などを実施。2024年4月には人材研修センターを開設するなど、人材育成の強化に取り組んでいます。

## 主要項目の計数目標と結果

	売上高	営業利益(累計)	配当政策	研究開発費(累計)	設備投資(累計)
計数目標	[連結] 2,000億円達成 [単体] 1,500億円達成	365億円以上	安定配当の実施	350億円以上	750億円以上
実績	[連結] 最終年度 2,279億円達成 [単体] 最終年度 1,492億円未達	424億円達成	達成	400億円達成	904億円達成

中期経営計画  
2024-2026

# PROACTIVE III

第6期中期経営計画では、前中期経営計画における5つの方針の内容を継承しつつ、新たに「DX推進による業務変革」を追加した上で、3つの基本方針を掲げました。今後、3つの事業と各事業を支える基盤の整備を進めることで、持続的な成長を図ってまいります。

第5期中期経営計画期間  
(2021~2023年度)

- 医薬品の不安定供給という国内市場の異常事態に対して、生産設備への投資と信頼性保証体制を強化
- 海外の事業地域が拡大しつつ、コロナ禍の収束にともない、東和薬品とTowa INTとの連携・協力が進展
- 三生医薬を加えた東和薬品グループの経営体制整備
- 将来を見据えた組織整備と重要ポストの後継者育成

第6期中期経営計画期間  
(2024~2026年度)

- 国内ジェネリック医薬品事業**  
大きな転換期を迎える国内市場の中、世の中から信頼され、必要とされる企業としての成長
- 海外医薬品事業**  
海外における事業地域のさらなる拡大を図りつつ、競争優位性をもつ製品の多様化に向けて取り組んでいく  
グループ財務バランスを考慮しつつ必要な成長投資(研究開発・設備投資)
- 新たな健康関連事業**  
継続的な事業探索と一定枠の投資  
健康情報プラットフォーム構想の進展
- 持続成長に向けた経営基盤の構築**  
継続した成長投資を行うために財務健全性の確保  
人的資本経営に求められる「経営戦略と人事戦略の運動」の実現

東和薬品グループの  
2040年に目指す姿

- 国内外の垣根無く医薬品の製造販売事業を展開している日本国発のグローバルジェネリック医薬品企業
- 東和薬品グループの新たな健康関連事業が社会からも認知され、グループ経営の柱として自立している
- 革新的だけでなく発展的な技術も含めて、イノベーション創出の風土が醸成・定着し、製品・サービスとして結実している
- グループ社員に加えて、その家族、元社員、地域社会など、身近な人々にまで「健康」と「こころの笑顔」の輪を広げることができている

## グループビジョン

# 健康の先の 未来を創造する

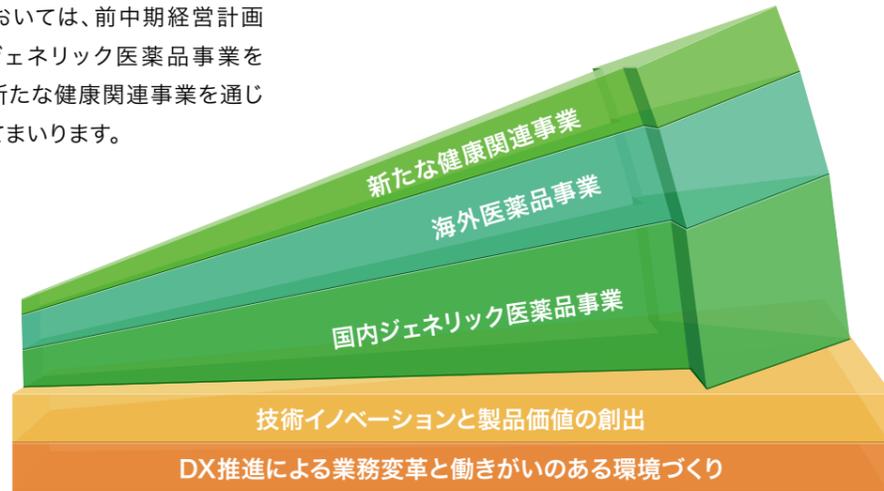
東和薬品グループは、健やかな身体、満ち足りたところにより、よろこびが笑顔としてあふれてくる。そんな「こころの笑顔」を大切にしています。

製品・サービスの提供を通じて人々が健康になることがゴールでなく、その先にあるそれぞれの人生が素晴らしいものとなり、すべての人々が人生を謳歌できるような未来を届けたい。このような思いのもと、『健康の先の未来を創造する会社』をビジョンとして掲げます。



- 方針1 国内ジェネリック医薬品事業の新たなステージに向けた進化
- 方針2 新規市場・新規事業の基盤確立とグループシナジーの実現
- 方針3 持続的な成長を支えるサステナビリティ経営の強化と基盤の整備

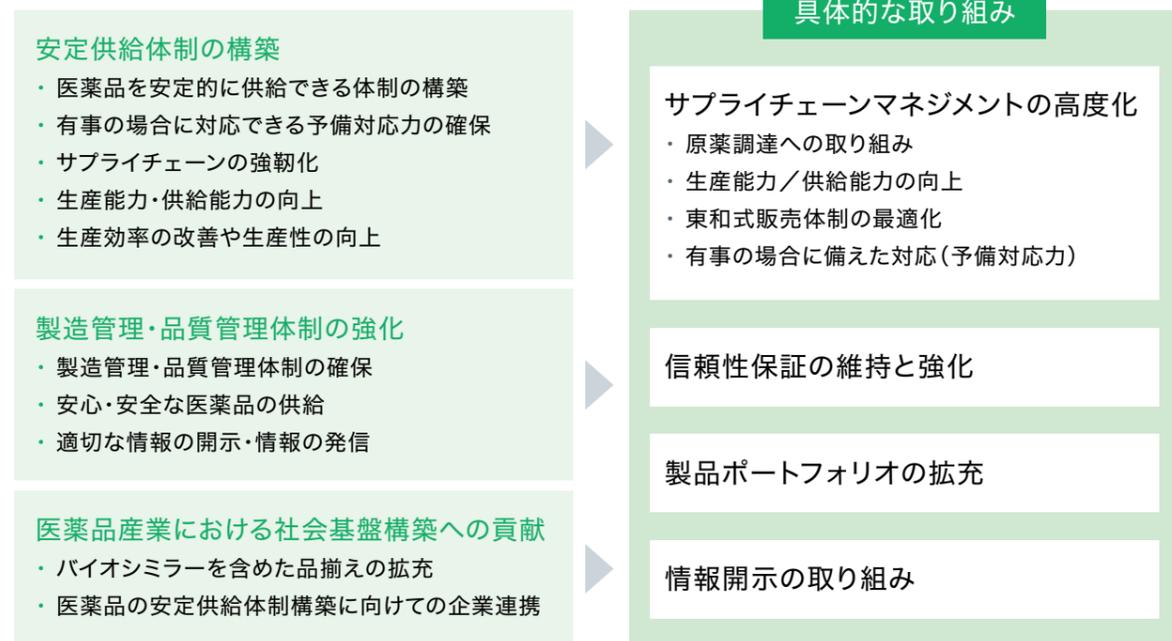
第6期中期経営計画においては、前中期経営計画の成果を踏まえて、国内ジェネリック医薬品事業をはじめ、海外医薬品事業、新たな健康関連事業を通じて、持続的な成長を目指してまいります。



## 方針1 国内ジェネリック医薬品事業の新たなステージに向けた進化

国内ジェネリック医薬品事業の新たなステージに向けて、東和薬品がこれまでに注力してきた取り組みである安定供給体制の向上のための「原薬調達」、「生産能力向上」、「販売体制の最適化」を継続して

いきます。加えて、「製造管理・品質管理体制の強化」「医薬品産業における社会基盤構築への貢献」に取り組んでいきます。



## 安定供給体制 ▶ 詳細情報 P.39

安定供給体制の確立に向けて、原薬調達から生産、物流、流通・販売に至るサプライチェーン全体で可視化し、適正にコントロールする仕組みを構築していきます。これによりサプライチェーンの高度化を推進し、医薬品の安定供給体制の向上を目指していきます。

具体的な施策としては、有事の際に対応できる予備対応力の確保や、サプライチェーンの強靭化が含まれます。さらに、生産能力や供給能力の向上を図るとともに、生産効率の改善や生産性の向上にも取り組み、安定供給体制の強化を進めています。

## 原薬調達 ▶ 詳細情報 P.39

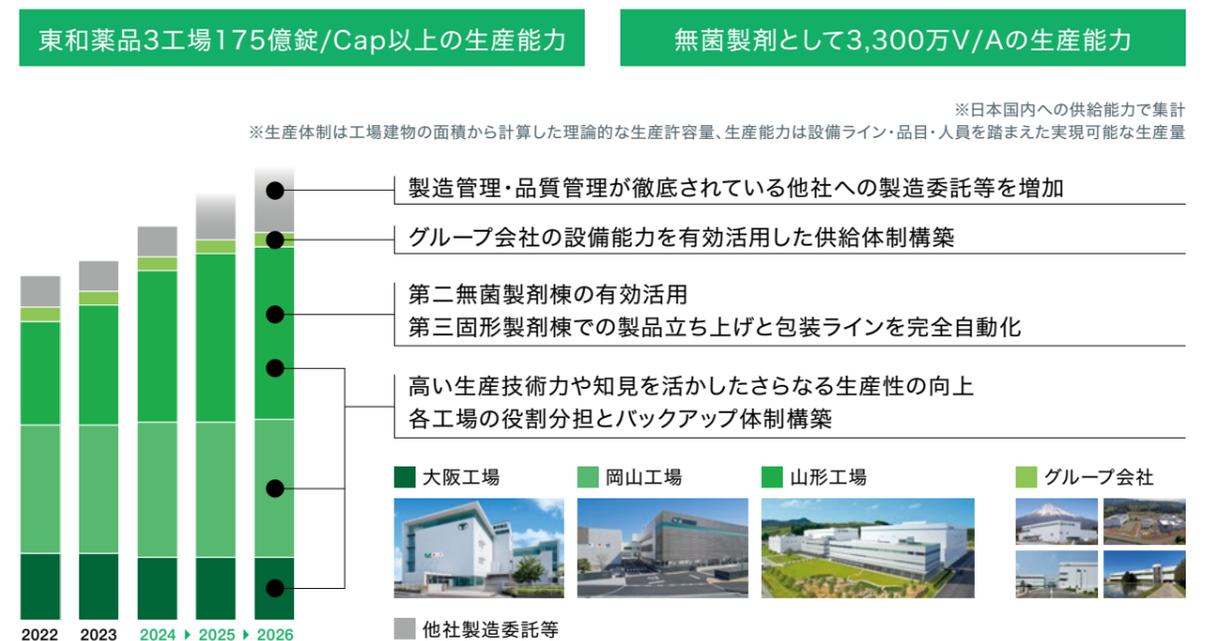
東和薬品は従来、原薬の自製化に取り組んできました。今後は合成プロセスを開発し、グループ会社の大地化成または協力会社で製造することで、安定供給リスクの低減を図っていきます。さらに、大地化成において抗がん剤などの高活性原薬の製造に対応

できる高度な技術を導入した製造棟の建設を予定しています。また、品質面におけるリスクとなる変異原性不純物に対しても、最新の知見を活用して原薬調達のリスク低減を図っていきます。

## 継続的な生産能力の向上

現状の生産体制については、山形工場・岡山工場・大阪工場の3工場を通じて140億錠の生産が可能です。今後、生産能力のさらなる増強のため、山形工場において新たな製剤棟を建設し、第6期中期経営計画の期間内で供給能力を段階的に向上させる

計画です。そして、最終年度の2026年度には3工場において175億錠体制の実現を目指します。さらに、東和薬品グループの生産拠点を活用し、製造および品質の管理を徹底する中で、供給能力の一層の向上を目指してまいります。

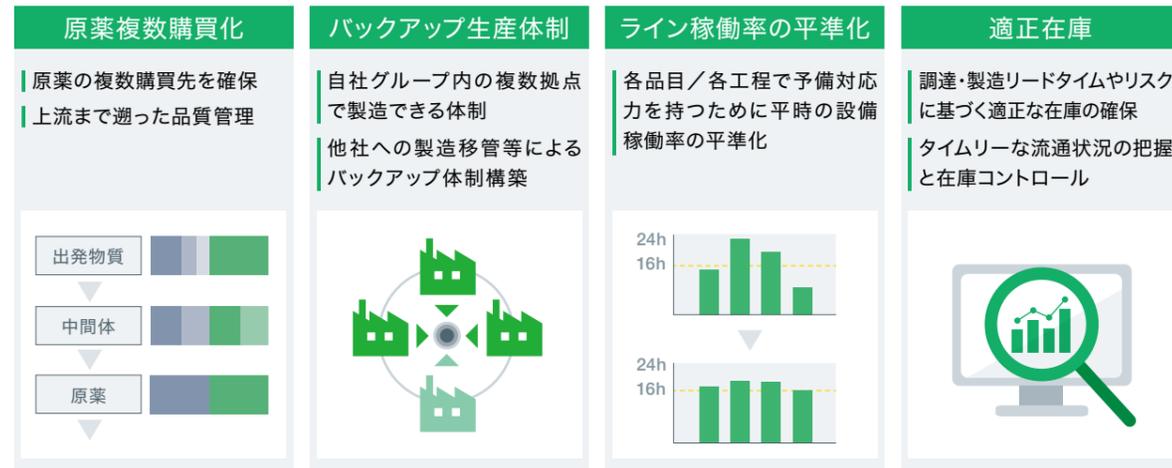


※日本国内への供給能力で集計  
※生産体制は工場建物の面積から計算した理論的な生産許容量、生産能力は設備ライン・品目・人員を踏まえた実現可能な生産量

## 有事の際に増産できる柔軟な体制を平時から構築する

医薬品の安定供給の一環として、有事の際に柔軟に増産できる体制を平時から構築することが不可欠です。東和薬品では予備対応力の確保に向けて、原薬の複数購買化の実現をはじめ、複数拠点で製造

できるバックアップ生産体制の構築、全製造ラインに均等な余力を持たせるライン稼働率の平準化、適正在庫の確保に取り組んでいます。



## 信頼性保証 ▶ 詳細情報 P.18

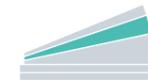
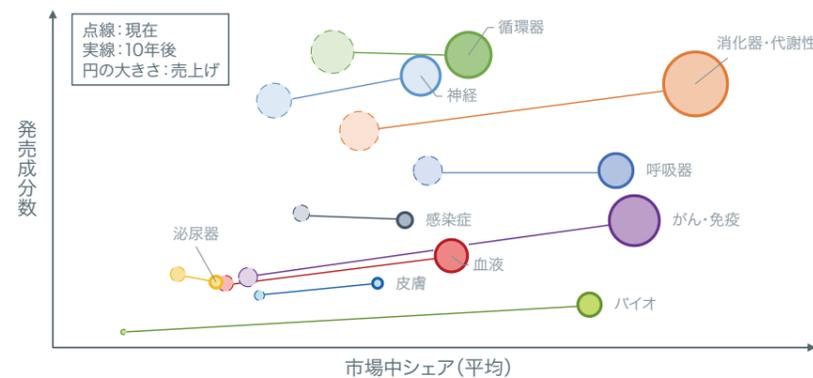
品質管理のさらなる強化を目指し、品質管理システムを導入。これにより、医薬品の製造・販売に関わるイベントや文書を電子的に一元管理する体制を整えています。既存の製造工程管理システムや品質試験管理

システムと併用することで、人為的な誤りを未然に防止します。また、医薬品の信頼性をグローバルレベルで確保するため、技術やノウハウを積極的に蓄積、活用し、日米欧の基準をクリアする製品の提供を目指しています。

## 製品ポートフォリオの拡充

医薬品の品揃えの拡充に向けて、将来の薬物治療に必要とされる医薬品を中心に、低分子医薬品の開発を進めています。中でも、成長が見込まれる消化器、

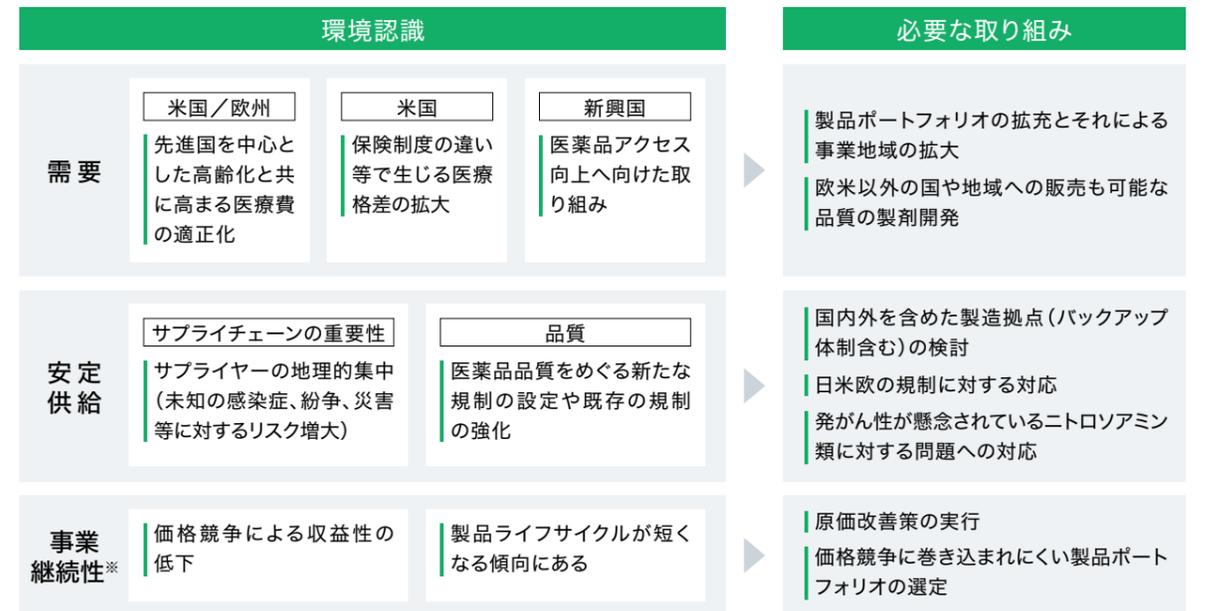
代謝性疾患、がん、免疫領域を含む幅広い疾患領域をターゲットとしています。また、将来の薬物治療の変化を踏まえ、品揃えの適正化も図っていく方針です。



## 方針2 新規市場・新規事業の基盤確立とグループシナジーの実現

新規市場・新規事業の基盤確立に向けては、海外医薬品事業および新たな健康関連事業を展開していきます。海外医薬品事業では、国際市場における東和薬品グループ製品へのアクセスを拡大し、日本国発の優れたジェネリック医薬品の海外展開を目指しています。一方、新規事業では、健康・医療情報双方向連携

サービス「ヘルスケアパスポート」を中心とした、サービスソリューション構想の実現を追求していきます。グループシナジーの実現については、東和薬品の強みと三生医薬の強みを活かし、「Sunsho Made」の東和薬品オリジナル製品の共同開発、製造、販売を推進していきます。



\*特に米国市場では、卸・薬局等の統合からなる大規模コンソーシアムのバイイング・パワーにより価格競争が激化

## 国際市場における東和薬品グループ製品へのアクセスを拡大

### 第5期(2021-2023): 基盤整備

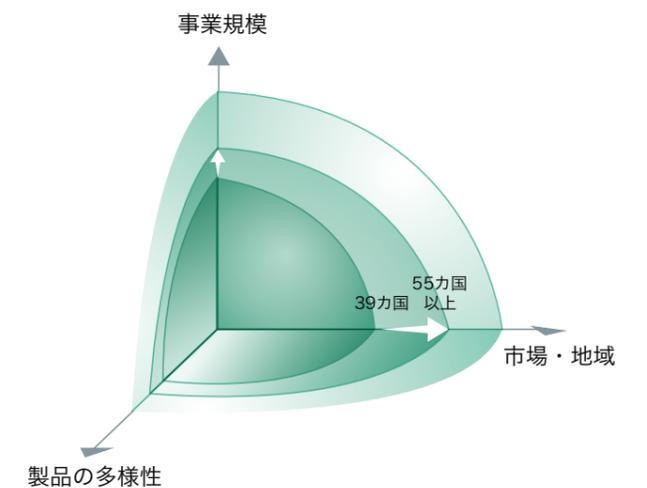
- ▶ B2B ビジネスの拡大(39カ国へ進出)
- ▶ グローバル品の開発着手
- ▶ Towa INTの製造技術を活かした協働

### 第6期(2024-2026): 規模の確保

- ▶ 既存ビジネスの維持・強化と市場・地域のさらなる拡大による売上と利益の確保(55カ国以上)
- ▶ 開発、製造技術におけるグループシナジーの形成
- ▶ 将来に向けて必要な研究開発・設備への投資

### 第7期以降(2027~): 拡大と多様化

- ▶ 製品ポートフォリオの拡充による成長
- ▶ 東和独自技術を活かした製品の開発
- ▶ グローバル生産体制の構築

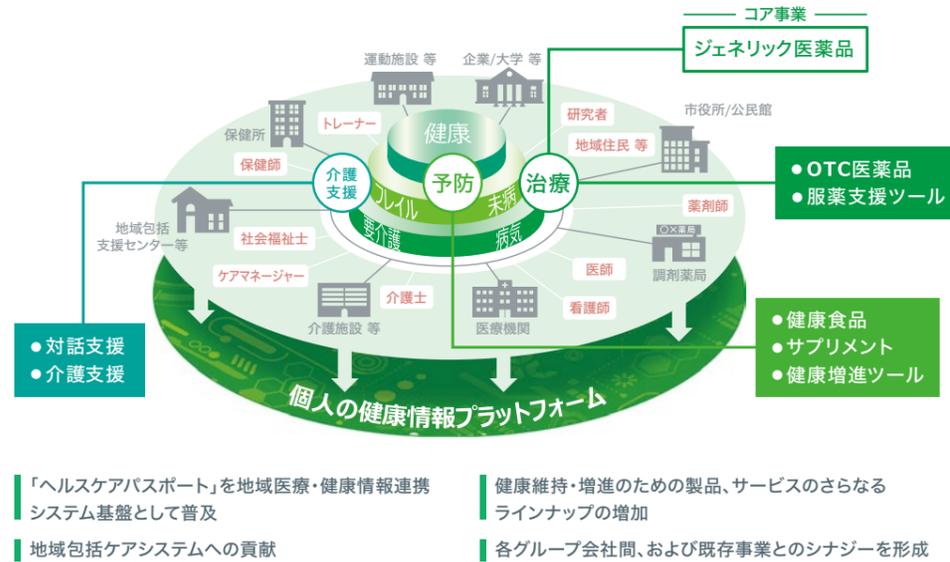


## 新規事業における取り組み

新たな健康関連事業への展開においては、グループ会社や既存事業とのシナジー創出を進めながら、継続的な事業探索と一定枠の投資を進めつつ、製品およびサービスのラインナップのさらなる増加を図っています。

さらに、個人の健康データを地域の医療機関を通じて、双方向で情報連携できる社会の実現を目指し、データサービスソリューション事業の進展にも取り組んでいるところです。

システムの中心は健康・医療情報双方向連携サービス「ヘルスケアパスポート」となり、サービスソリューションとして「エクサ・ポート」構想の実現を目指す



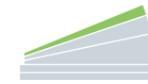
## 三生医薬とのシナジー

東和薬品の連結子会社である三生医薬とのシナジー創出については、国内市場を中心に東和薬品の強みと三生医薬の強みを活かしながら、三生医薬の

製造による当社オリジナルの健康食品やヘルスケア雑貨の共同開発を進めていきます。



※ユニオープ®の特微有効成分(原薬・化合物)を含むゲルと不溶性微粒子の外層からなる被覆粒子

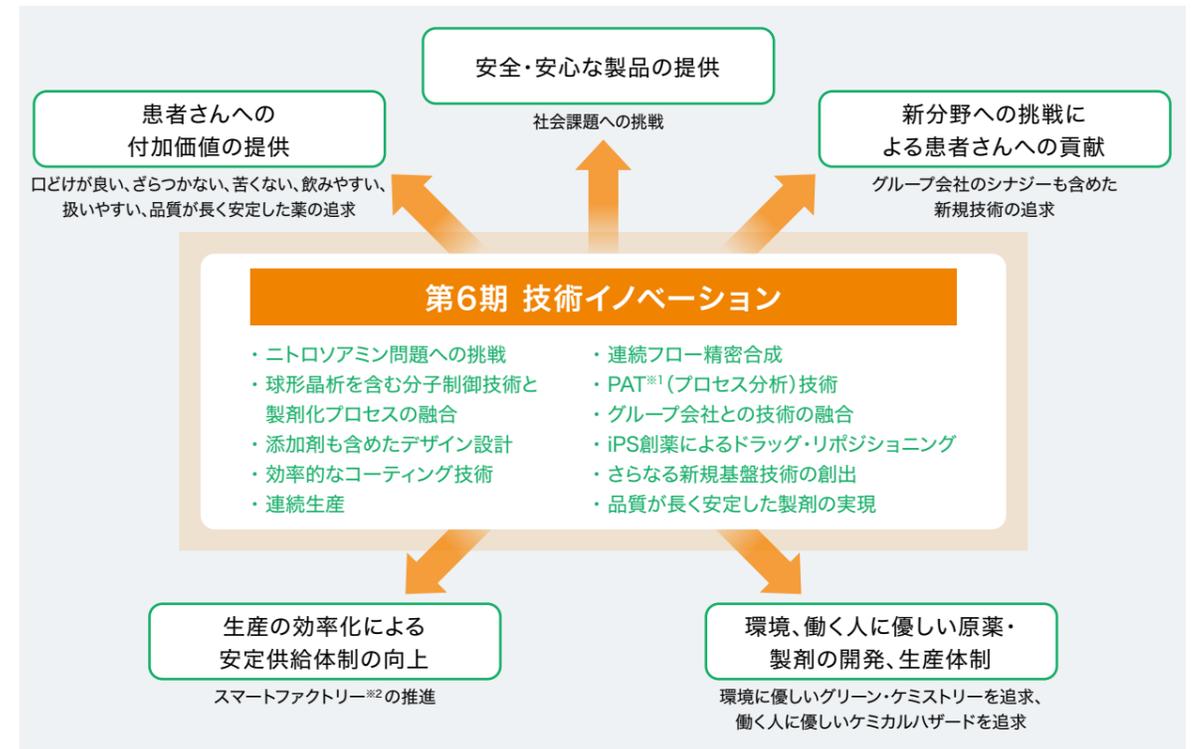


## 方針3 持続的成長を支えるサステナビリティ経営の強化と基盤の整備

原薬技術および製剤化技術、生産技術におけるイノベーションの創出については、従来、注力してきました。今後も継続して取り組んでいきます。特に第6期中期経営計画においては、確立した新技術を活用した製品化の実現を進めていく考えです。たとえば、球形晶析

の分子制御技術を通じて、口どけがよく、ざらつかず、苦くもなく、飲みやすい薬を追求していきます。これによって、患者さまにとって付加価値の高い製品を実現したいと考えています。

## 技術イノベーションと製品価値の創出



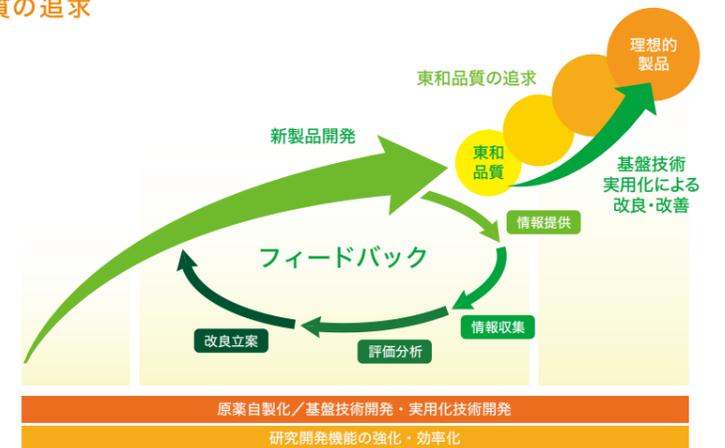
※1 PAT(プロセス分析): Process Analytical Technologyの略称  
 ※2 スマートファクトリー: デジタル技術の活用によって業務プロセスの改革や生産性・品質の向上を継続的に行う工場のことを指します

## 製品総合力No.1の製品づくりと東和品質の追求

製品総合力No.1の製品づくりとは、安心してお使いいただける「東和品質」の製品を世の中に提供することを目的とした取り組みです。

これは徹底した品質管理のもと、提供していく製品の確かな品質を保証するものであり、最新の技術で改良・改善を重ね、その時々で最新・最高のものに更新していきます。

この取り組みを加速させるために2024年4月に製品改良部を新設しました。



## 成長投資と財務健全性のバランスに向けた取り組み

持続的成長と健全な経営を推進するため、国内ジェネリック医薬品の安定供給を通じた成長と、ROIC(投下資本利益率)の向上に取り組めます。新たな計数目標

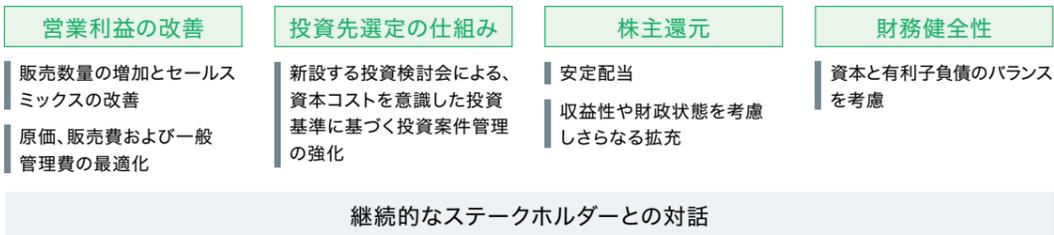
としてROICを設定し、WACC(加重平均資本コスト)を上回るROICの実現を目指し、営業利益の改善や投資案件管理の強化を進めていきます。

国内ジェネリック医薬品の安定供給への貢献を通じてさらなる成長を実現

資本コストを考慮し、投下資本利益率(ROIC)の向上に向けた取り組みを推進

### 持続的成長かつ健全な経営

中計期間中の計数目標 加重平均資本コスト(WACC)を上回るROICの実現



<b>売上高(最終年度)</b> [連結] <b>3,000億円</b> 達成 [単体] <b>2,000億円</b> 達成 ■ 単年度の売上高の達成	<b>営業利益(累計)</b> [連結] <b>680億円</b> 以上 持続的な成長のための投資および株主還元のために、期間累計の営業利益の達成	<b>ROIC<sup>※</sup>(最終年度)</b> [連結] <b>6%以上</b> (のれん影響あり) <b>7%以上</b> (のれん影響なし) 資本コストを意識しWACCを超えるROIC <sup>※</sup> を達成
<b>研究開発費(累計)</b> [連結] <b>550億円</b> 以上 必要とされる製品の品揃えと、医療機関や患者さんからの要望に応える製品の改良・改善	<b>設備投資(累計)</b> [連結] <b>600億円</b> 以上 品質保証体制、安定供給体制を維持・強化するための生産設備および流通機能の強化・効率化への投資として	<b>配当政策</b> <b>安定配当の実施</b> 安定的な配当を基本とし、企業価値の向上を見据えた株主還元を図る

※ROIC計算式：税引後営業利益÷(自己資本平均残高+有利子負債平均残高)  
 のれん影響あり：外部開示ベースでの計算  
 のれん影響なし：内部管理ベースでの計算

# 東和薬品のサステナビリティ

## サステナビリティに関する考え方

ジェネリック医薬品の数量シェアがおよそ80%にまで達した今、これまで以上に安定供給に努め、製品の品質を一層高めしていくということが社会的責任であると考え、製品管理、品質管理を徹底するとともに、新たな事業や地域を通じて、理想とする地域社会創生のための基盤構築へ貢献し、また必要な健康増進サービスを必要とする人へ提供し、健康寿命の延伸への貢献を目指してまいります。

このような方針の下、今後の大きな変化に対し、当社グループの総力を統合しながら長期展望を描くために、当社の理念である「私達は 人々の健康に貢献します 私達は こころの笑顔を大切にします」の実現に向けて、それぞれの事業や会社の目指すべきゴールを定め、それぞれの会社が自律組織となって新たな社会課題を発見し、グループ総力で解決する必要があります。

これを実現するためのグループガバナンスの体制として、取締役会から気候変動を含むリスクに関して諮問を受けたリスクマネジメント委員会(最高責任者 代表取締役社長 吉田逸郎)が各部門・関係会社と連携して情報収集、分析を実施し、想定されるリスク(気候変動関連の機会を含む)やそれらにかかる取り組みについて検討を行っています。取締役会はリスクマネジメント委員会から検討状況について年2回報告を受け、方針の決定と監督を実施しています。

また、代表取締役社長 吉田逸郎が議長を務める経営戦略会議を原則として週1回開催し、経営課題に関する重要案件を審議しています。この中で人事施策を含む経営方針・中期経営計画を審議し、基本戦略や経営目標を明確にしています。

## ● サステナビリティ方針



サステナビリティ方針の策定にあたり、社会課題や社会の変化から当社が取り組むべき重要課題を抽出しました。次にそれらの課題を社会にとっての重要度、東和薬品グループにとっての重要度の2軸でマッピングを

行い、それぞれの課題を4つのテーマに分類しました。事業基盤を強化し、地球環境に配慮し、社員一人ひとりを大切にしながら、技術革新に挑み続けることで、東和薬品グループは持続可能な社会の実現に取り組めます。